GENDER POSITIVE REPORT

ジェンダーポジティブレポート

SIGN ING
Social Business Studio

LGBT総合研究所
Japan LGBT Research Institute, inc.

DAIKO

現在、企業活動においても、多様性が重視されている時代。

その中でも「ジェンダー」はどのように捉えていけばいいか、まだまだ悩みも多い領域。
企業活動の中でどう捉えたらいいのか、それがどういう意味をもたらすのか、
ちゃんと考察したものはまだ少ないのが現状です。

本レポートは、そうした悩みや課題に対して、答えるものとなっています。

What is GENDER

**ジェンダー・Genderとは、生物学的な性差(セックス・Sex)に対し、
社会的・文化的につくられる性差のこと。
例えば「男らしさ」「女らしさ」といったイメージの違いなど、
時代や文化によって変化するもの。**

生物学的な性差のセックスは、生物学的・生理的な特徴によって分類される普遍的なもので、一般的に男性・女性に区分されるものである。一方、社会的・文化的な性差のジェンダーは、ファッションや仕草、言葉遣いなどの行動傾向や、職場や家庭における役割分担などにおいて「男性らしさ」「女性らしさ」など期待される姿として定義される。こうした「男性らしさ」「女性らしさ」のイメージは国や文化、社会情勢などによって異なり、また時代と共に変化することも多い。

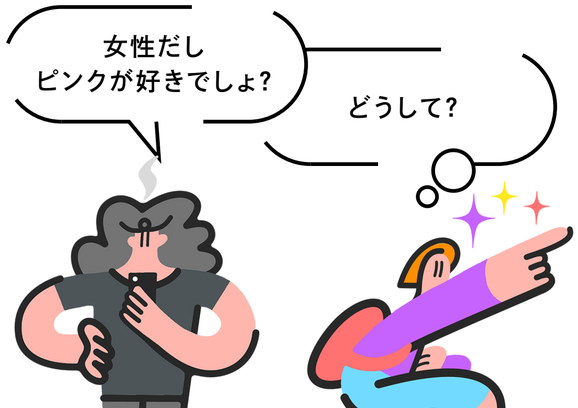
SDGsの目標でも、ジェンダー平等の達成が掲げられており、多様なジェンダー尊重が求められている。
日本でも、未だ多様なジェンダーや性のあり方に対する理解が十分でない状況にあり、自分と異なる性に関わる意識に対する尊重が求められている。

GENDER Bias

ジェンダーバイアスとは、「男らしさ」「女らしさ」などの男女の役割に関する固定的な観念や、それに基づく差別・偏見・行動などのこと。
昨今、こうした無意識のバイアスからの解放が求められている。

ジェンダーの多様性

バイナリー・binaryとは二つの要素で成り立つものを指す言葉。バイナリー・ジェンダーとは、性別として男性・女性の二元論で分類する考え方のこと。一方、男女二元論に捉われないノンバイナリー・ジェンダーの考え方もある。ジェンダーは単に男女の2区分だけでなく、多様にあると捉えることもできる。



Challenge of GENDER Equality

多様なジェンダー観と向き合う社会

制服や水着など男女別に決められていたが、本人が望む方を選択できるようになってきた。おもちゃ売り場や百貨店などでは、男女に区分けした売り場の垣根をなくす取り組みも始まっている。国内では、多様なジェンダーとの向き合いにチャレンジしているアイデアが増えてきている。

既存の価値観や性規範との衝突も課題に

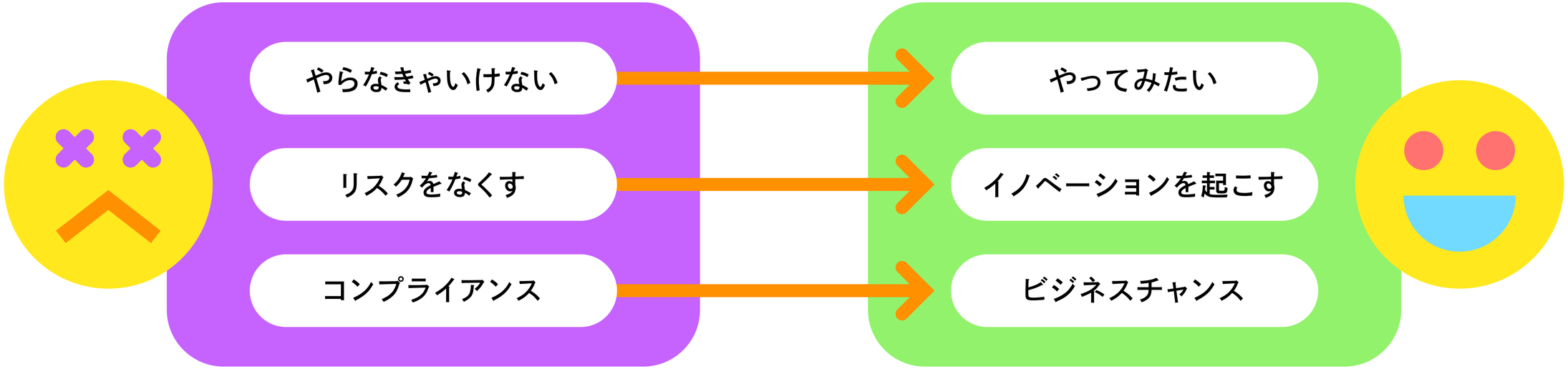
一方で、ジェンダーレストイレを謳う公共施設のお手洗いに疑問の声が挙がったり、性自認に基づくスポーツ参加は平等性を欠くのでは?という議論が高まったり、生物学的特徴が利用の前提となっていた領域では、性自認を優先すべきか?といった議論が迫られている。

まさに今、日本では変革の真っ最中であるジェンダー課題において、
多様なジェンダーや性のあり方に対する理解と、向き合い方が問われている状況である。

Think POSITIVE

本レポートでは、コンプライアンスリスクの低減ではなく、イノベーションを生み出すというポジティブな意識で多様なジェンダーや性のあり方と向き合う方法を探っていきたい。ポジティブに進めていくにはどうしたらいいのか?
我々は、多様なジェンダーや性のあり方を取り巻く環境の現状を把握するため、調査を行った。

‘やらなきゃいけない‘ から ‘やりたくなる’ へ



INDEX

CHAPTER 1 <定量調査>
多様なジェンダーや性のあり方を
受け入れる人と受け入れない人の違いとは? P8

CHAPTER 2 <定性調査>
受け入れる人ってどんな人? P24

CHAPTER 3 <アクション提案>
受け入れる人を増やす方法とは? P36

CHAPTER 1

定量調査

多様なジェンダーや性のあり方を
受け入れる人はどんな人だろう?

受け入れたい人、受け入れられない人には
どんな違いがあるだろうか?

生活意識や趣味嗜好など、色々な項目で比較してみた!

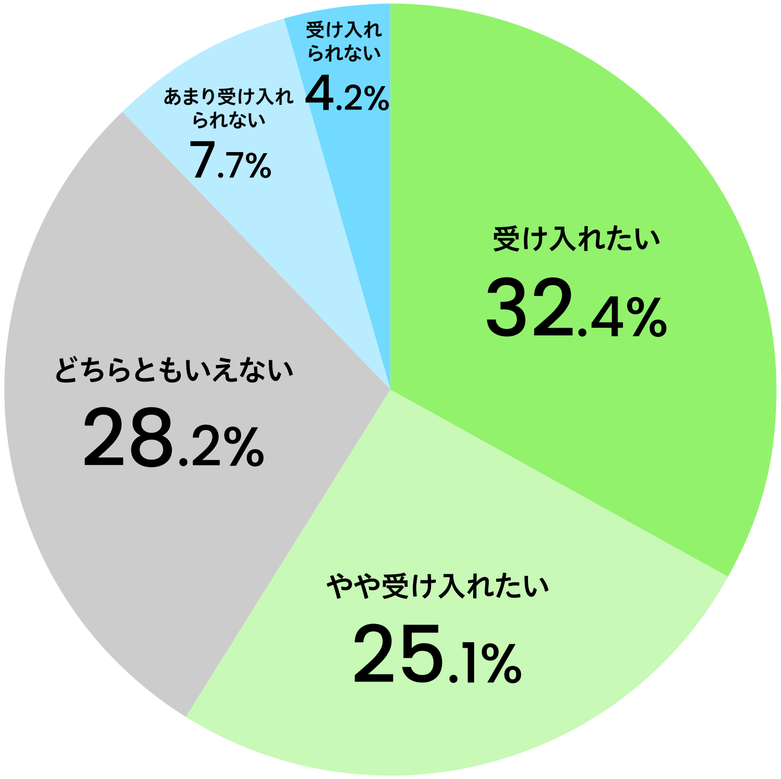
受容度

多様なジェンダーや性のあり方を受け入れたい人は約6割
若い年代ほど、多様なジェンダーや性のあり方に対し寛容な傾向

受け入れられない計

11.9%

年代別	
10 代	6.9%
20 代	6.5%
30 代	8.6%
40 代	11.6%
50 代	12.0%
60 代	14.1%
70 代	18.7%



受け入れたい計

57.5%

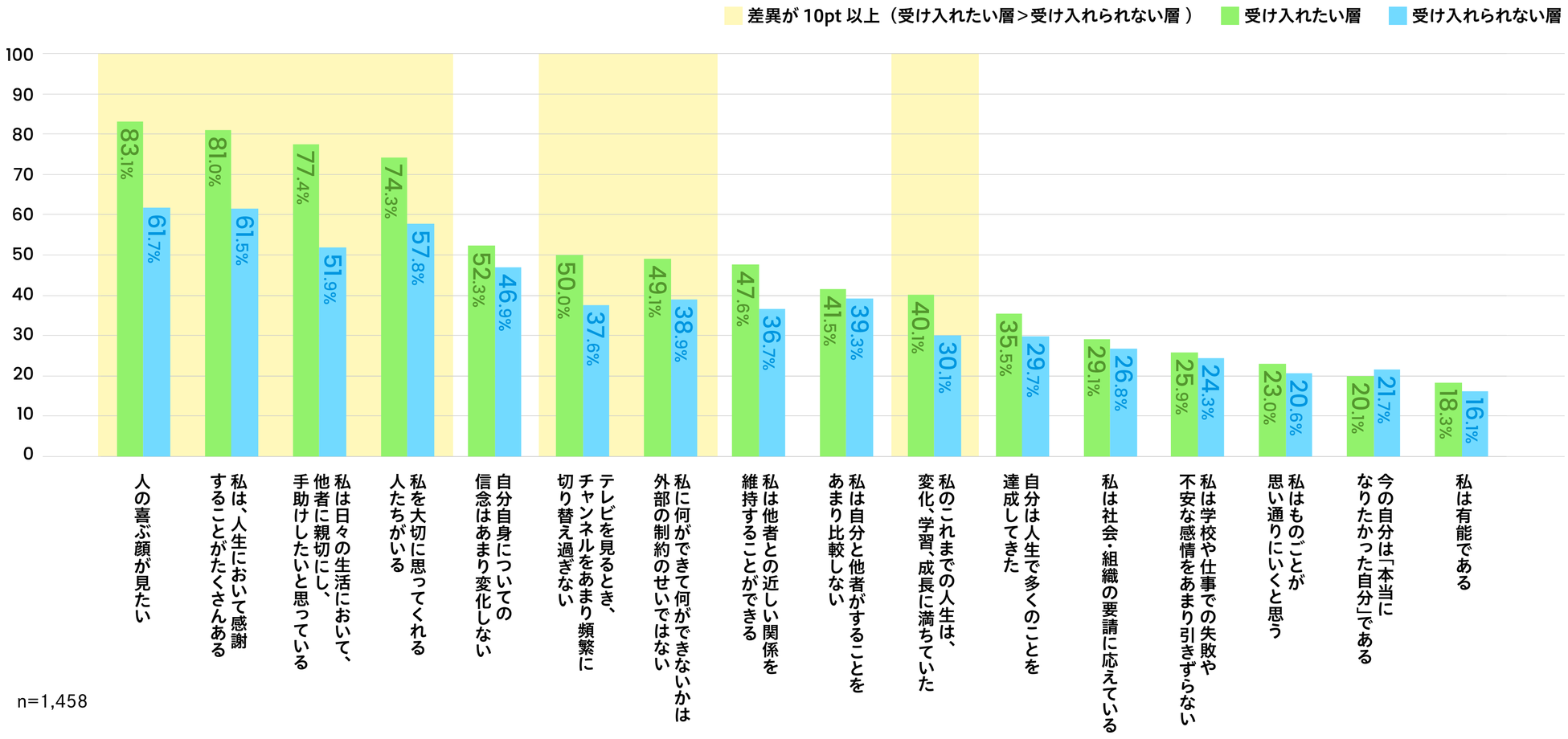
年代別	
10 代	74.1%
20 代	68.2%
30 代	63.1%
40 代	57.8%
50 代	53.9%
60 代	54.2%
70 代	44.7%

n=10,000

幸福度

受け入れたい人ほど、幸福度が高い

受け入れたい層は他者に対しての感謝や奉仕が高く、それが自身の幸福度に繋がっている傾向。

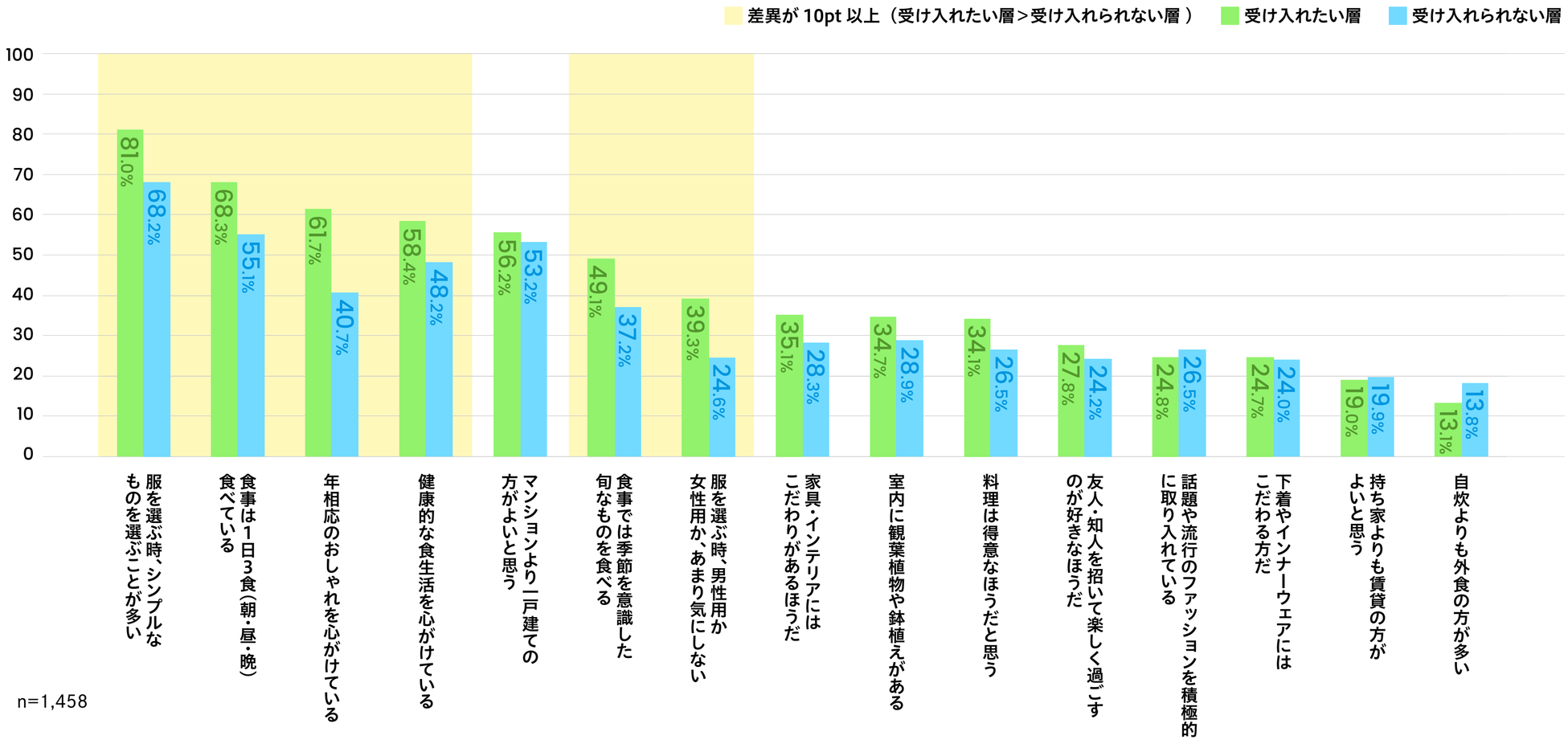


n=1,458

衣・食・住

受け入れたい人ほど、衣・食・住の意識が高い

健康意識も高く、特に衣・食の項目には高い意識が伺える。

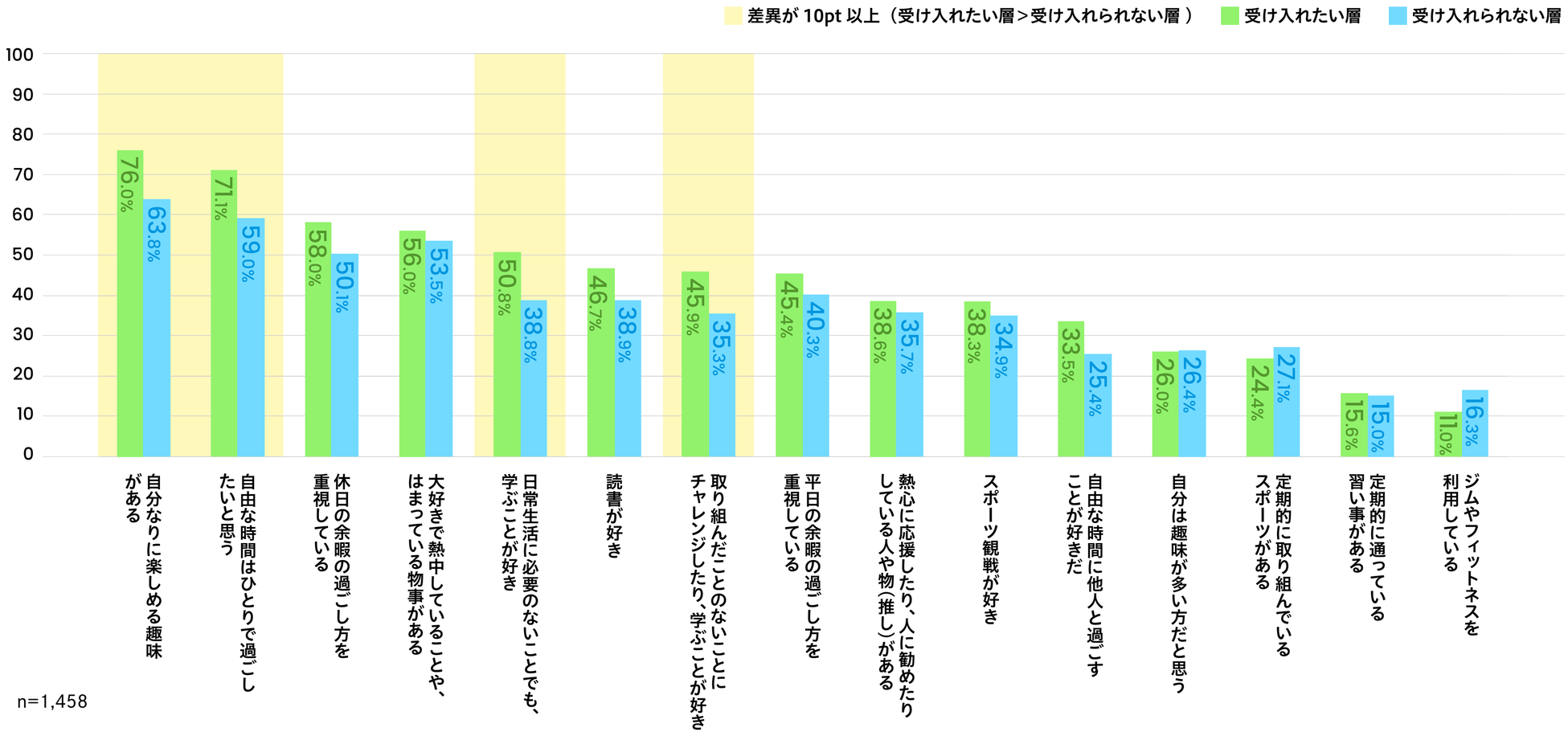


n=1,458

趣味
遊び・学び

受け入れたい人は好きなことを楽しみ、新しい事にも挑戦

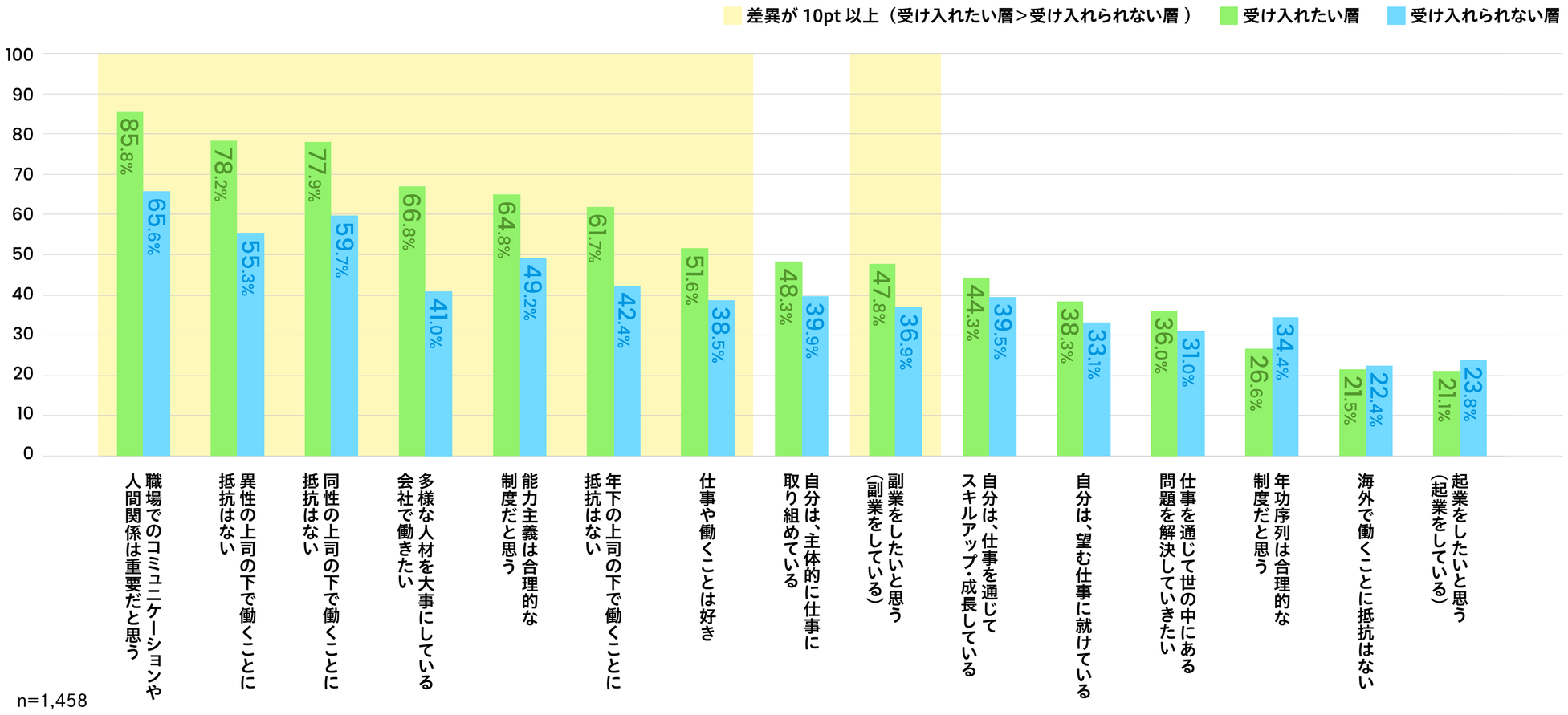
受け入れたい層は、趣味や学びに時間を過ごし、人生の余剰を楽しんでいるように見受けられる。



仕事意識

受け入れたい人は、職場内のコミュニケーションも円滑

受け入れたい層は人間関係を重要視し、多様性に寛容な人が多い。

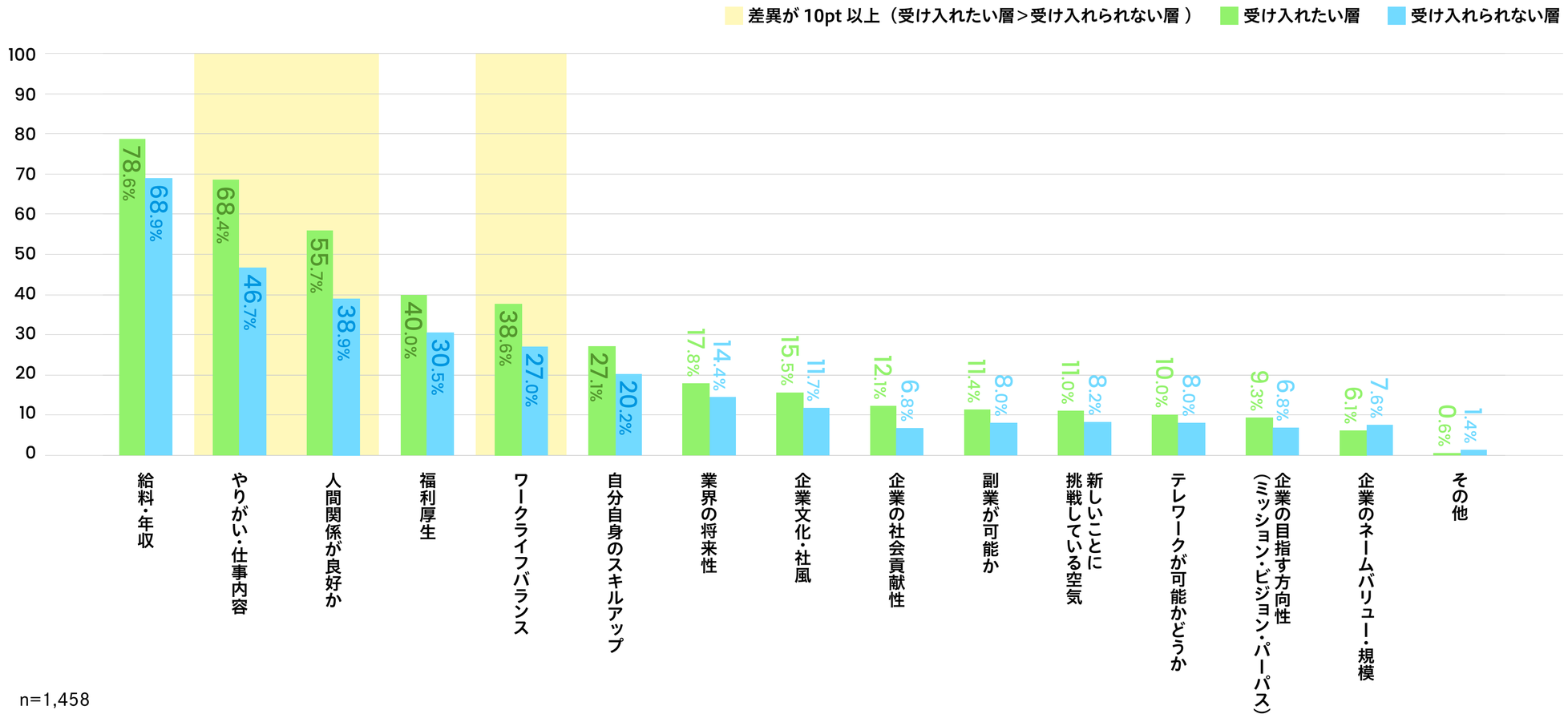


n=1,458

仕事
（重視点）

受け入れたい人は、やりがいとワークライフバランスを重視

受け入れたい層は自分のやりたいことを大切にしている。
受け入れられない層はやらないといけないものと捉えている傾向。

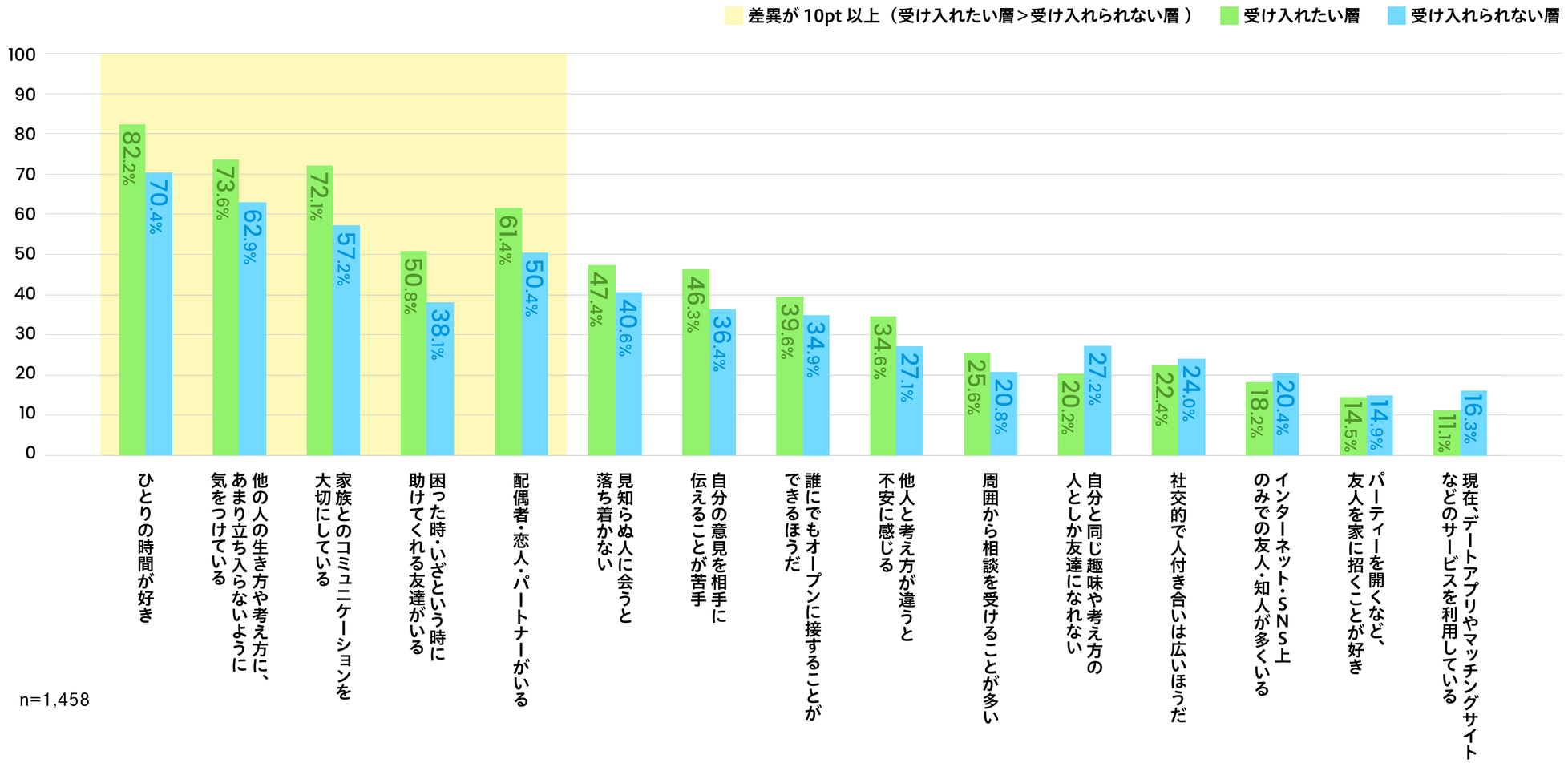


n=1,458

人間関係

受け入れたい人は、この時間や価値観を尊重する傾向

受け入れたい層は、周囲からの信頼も厚い一方、異なる生き方や考え方には立ち入りすぎず尊重している。

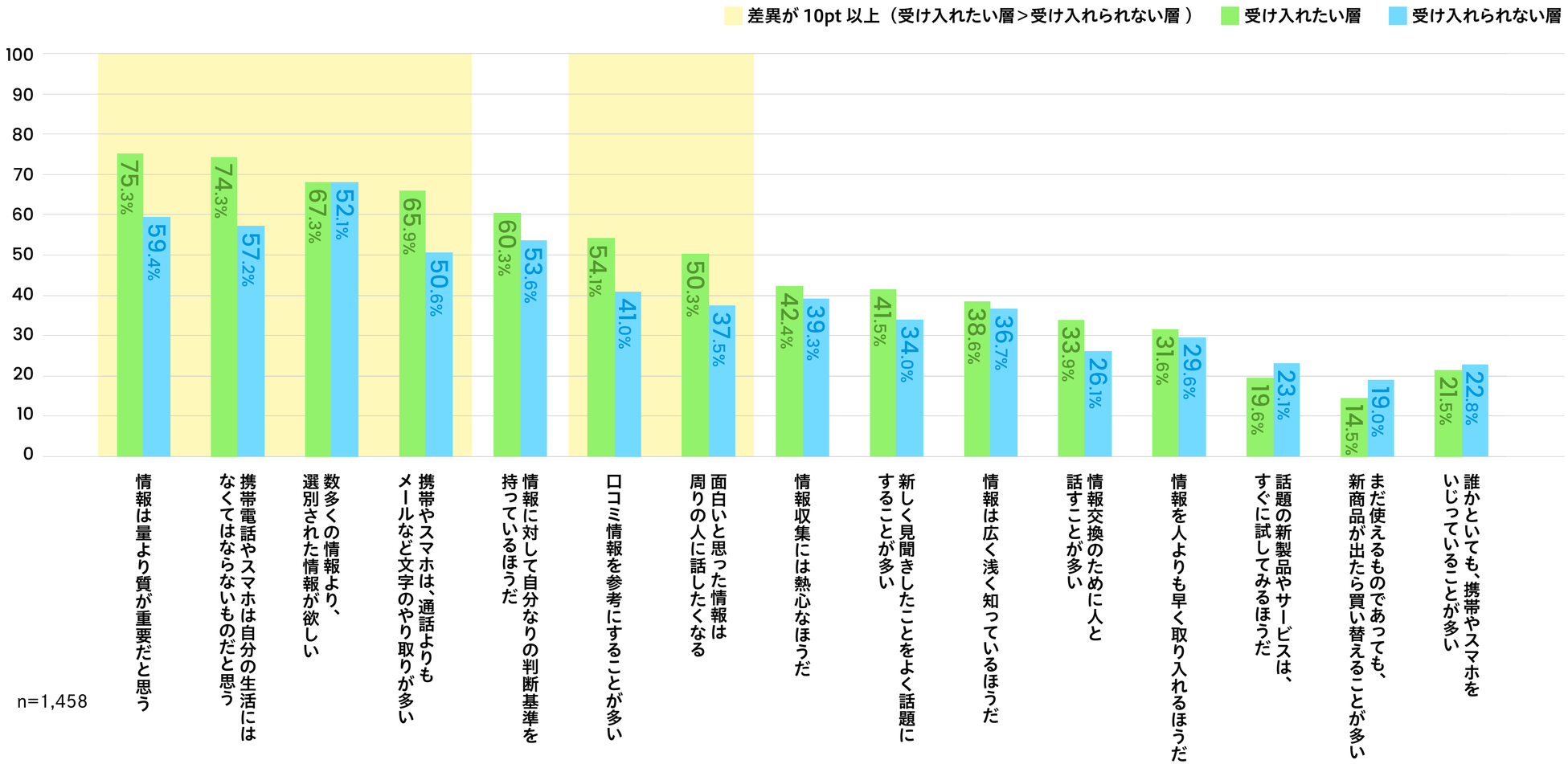


n=1,458

情報感度

受け入れたい人は、情報感度が高い

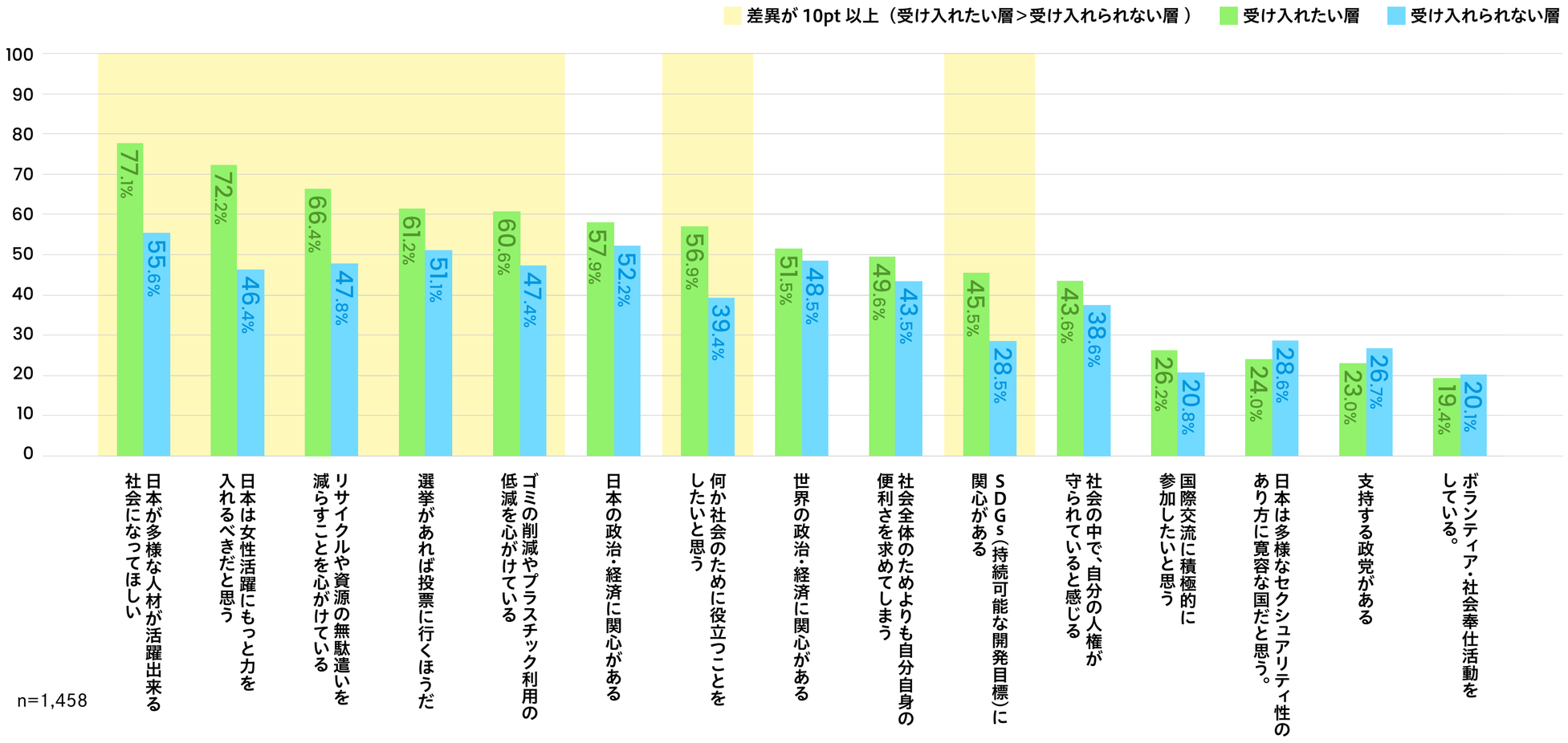
受け入れたい層は情報の収集や発信に積極であると同時に、情報の質を気にする傾向が高い。



社会意識

受け入れたい人は、社会課題に対する関心が高い

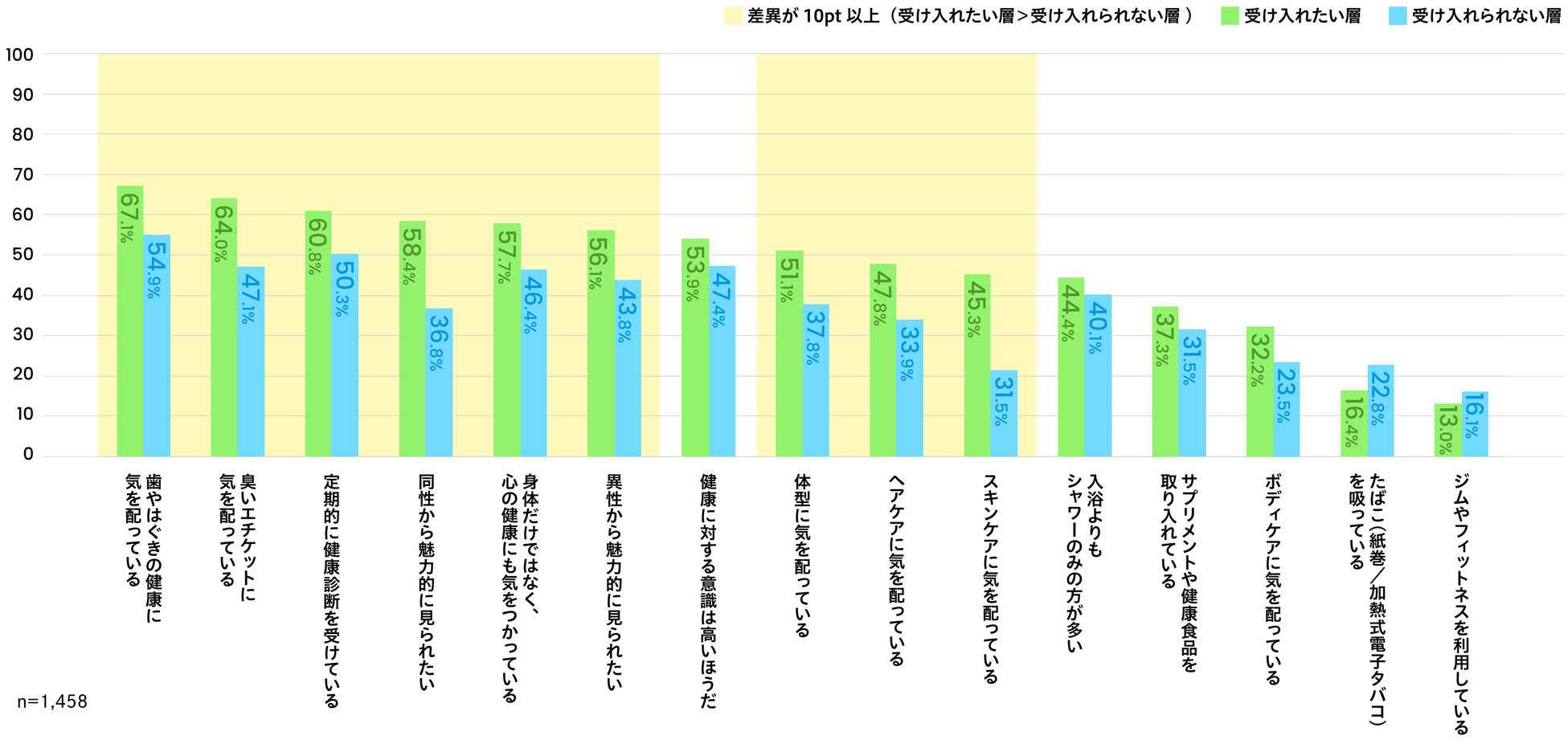
受け入れたい層は、様々な社会課題に関心が高い傾向が見られ、中でも多様性に関わる課題に関心が高い。



健康・理美容

受け入れたい人は、理美容意識が高く、周囲に配慮がある傾向

受け入れたい層は、周りからどう見られるかの意識が高く、ケアに熱心な様子が伺える。

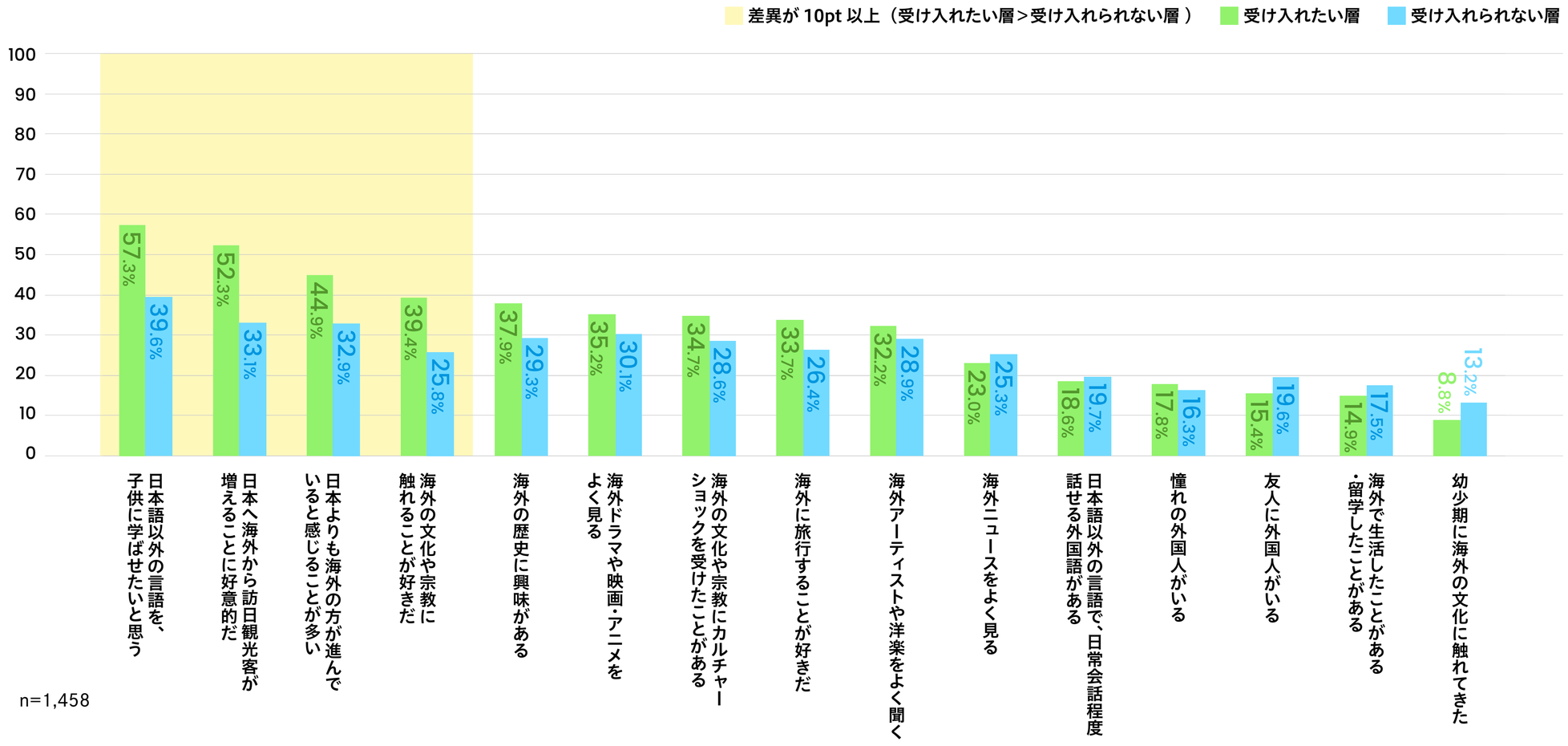


n=1,458

海外・旅行

受け入れたい人は、海外の文化が好きで、訪日外国人にも好意的

受け入れたい層は、海外文化に好意的で、ドラマやアーティストなどの
海外コンテンツなどにも関心が高い傾向。

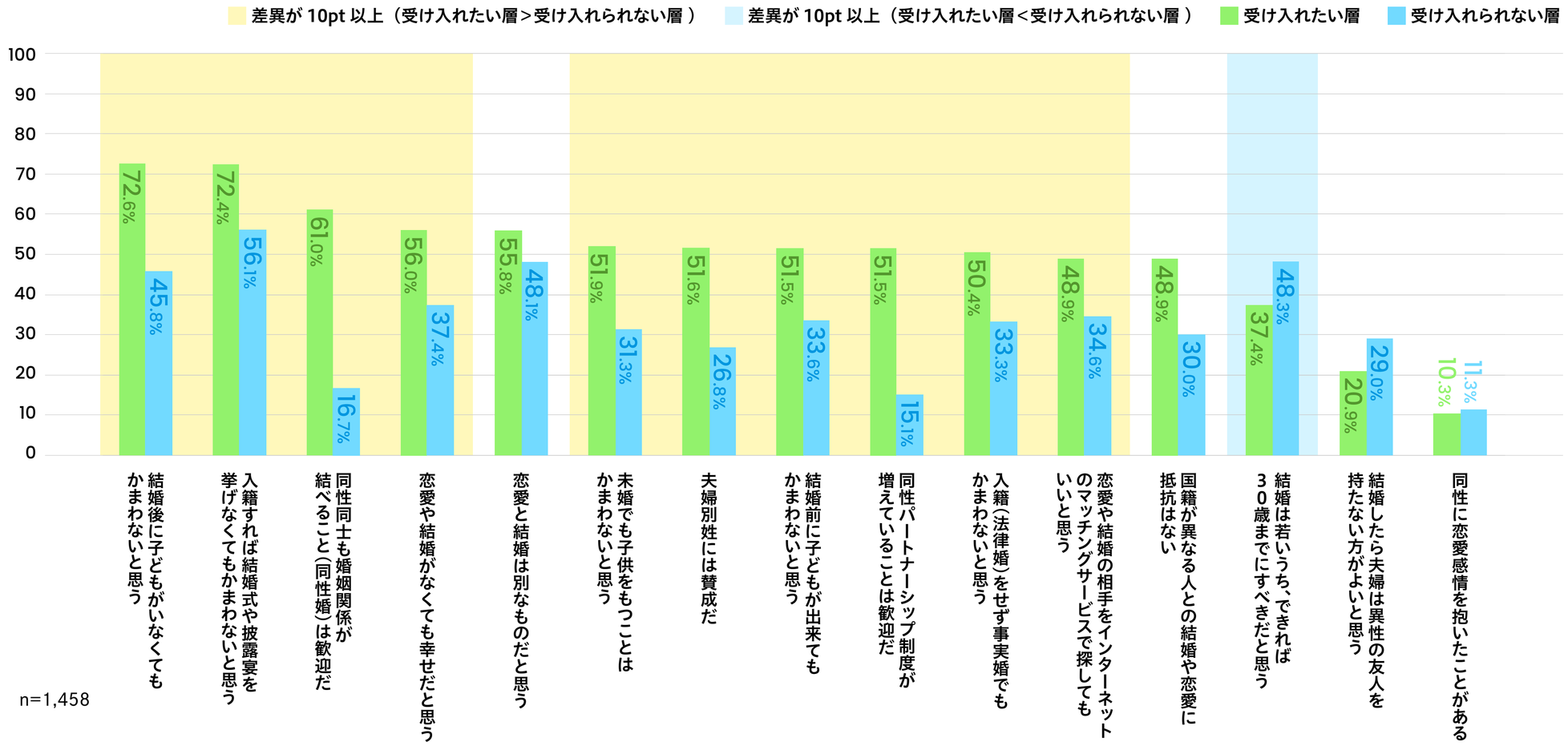


n=1,458

結婚・恋愛

受け入れたい人は、愛のカタチに柔軟な考えをもつ

受け入れたい層は、恋愛や結婚に関して柔軟な考えを持っている傾向。



n=1,458

受け入れたい層は、ジェンダーに限らず、
様々な事象に対して受け入れる力があり、
アクティブで柔らかな感性を持っていることが分かった。

Special Interview

西原さつき

1986年5月24日生まれ。
愛知県名古屋市出身。16歳から女性ホルモンの投与を開始。26歳でタイ王国にて性別適合手術を受けた。現在は、性移行した体験を次世代に伝える活動をしている。 自身の経験をもとに女の子らしくなるための学びの場「乙女塾」を創立。 またテレビドラマや映画の出演・監修や、全国の中学・高校での講演活動など幅広く活動中。

2017年：テレビCM「この性を生きる」ACC
TOKYO CREATIVITY AWARDS ゴールド賞を受賞
2018年：NHKドラマ「女子的生活」出演・監修
2019年：カンコー学生服公式サポーターに就任
2020年：映画「ミッドナイトスワン」日本アカデミー賞
最優秀作品賞を受賞（脚本監修）
声優学校を卒業

色んなことを引き算して0にするよりかは、無限の方に、色んな選択肢を増やす方に動いてほしいなって

中学生で学ランになった時、とにかく衝撃的にショックだった。

ーご自身の性のあり方に気づいた経験って?

物心つたいときから漠然と違和感は感じていたんですけど、中学生で学ランになったのが、とにかくもう衝撃的にショックだったのを覚えています。それまで結構、明るいタイプだったんですけど、そこからはずっと下を向いてる感じになって。
勉強とか生活態度とか、全部のパフォーマンスが消極的になっていきましたね。 中学2年生の頃にテレビで「性同一性障害」は知ったのだけれど、「男として生きなきゃいけない」って思い込んでて、なるべく考えないようにしていました。
それでも、悩み過ぎてて受験が終わった16歳の時に、親に隠れてネット検索をしてたんですが、女性ホルモンに関する投稿を見て。それで、トランスジェンダーの先輩に相談したりしながら、女性ホルモンの投与を始めたんですね。それから時間が経つごとに自分の体がどんどん

変わっていってると実感していきましたね。
それから20代に就職して、1社目は男性として働いていたんですが、すぐ辞めて。23歳の時に2社目でITの会社に女性として就職出来ました。そこから24時間女性としての生活になって。そのあと26歳の時に性別適合手術をタイで受けましたね。

自分を100%出して、反応が良かったときが嬉しい。

ー自分らしく生きるって難しいですよね
自分らしさを貫くっていうか、これしかないなぁっていうのはあって。自分のスタンスで居続けるんだと思います。タイのビューティーコンテンストに出た時に、控えめな態度をとっていたら「私を見て！ってなんでできないの？」って、すっごい怒られたことがあるんですよ。きちんとパフォーマンスできていないって。「私なんて・・・」っていうのが美徳とされる日本と、「私を見て！」のタイ、全然違って。どちらの考え方も分かるんですけど、後者のほうが明らかに楽しいな、って感じました。自分を100%出して、他人の反応が良かったときってすごく嬉しいですよね。自分の好きと他人の好きが重なるっていうのかな？人と異なる感性が、人と重なった瞬間って、やっぱりあって、その時に爆発的な「創造」が起きるみたいな感じが楽しいですね。

色んな選択肢を増やす方に動いてほしいなって気がします。

ー多様なジェンダーをどうしたら楽しめる？
なんか最近、ジェンダーレスとかよく聞きますけど、ジェンダーレスって、黒とか白とか灰色みたいなイメージじゃないですか。色んな「色」を差し引いた感じのイメージ。削ぎ落とすことで、「らしさ」を問わなくすることは分かるんですけど、それは楽しいのかな？って疑問に思っちゃいます。
ジェンダーニュートラルって、それとちょっと違うと思うんですね。全部そぎ落とすっていうよりか、広げていく感じ？
「ニュートラル」と聞くと車のギア変のイメージじゃないですけど、バックもできるし、5速までも入れられるみたいな。ガチャガチャして色んなところにギアが入る。自分自身でどこでも変えられるみたいな感じで嬉しい感じがしますよね。
ジェンダーレスで、色んなことを引き算して0にするよりかは、ジェンダーニュートラルというか無限の方に、色んな選択肢を増やす方に世の中が動いてほしいなって気がします。

CHAPTER 2

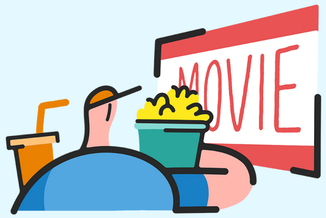
定性調査

様々な項目で比較してみると
受け入れたい層は、なんだか素敵な人生を
歩んでいそう な気がする

受け入れたい層は 実際どんな人なの?
どんな性格?どんな人生を送っているの?

受け入れたいと答えた人6名にデプスインタビューを実施した。

受け入れる力のある男女6名にインタビューを実施



対象者1

・29歳　男性
・1人暮らし
・仕事を辞めたばかり
・スノーボード、映画鑑賞、パチンコ

対象者4

・37歳　男性
・1人暮らし
・ドラッグストア　バイト
・旅行、地理や歴史

対象者2

・47歳　女性
・既婚、子2人正社員
・証券会社で事務
・旅行 、ドラマ、お香

対象者5

・60歳　男性
・妻と同居　娘は独立
・IT系　会社員
・音楽鑑賞、You Tube、事務、テニス

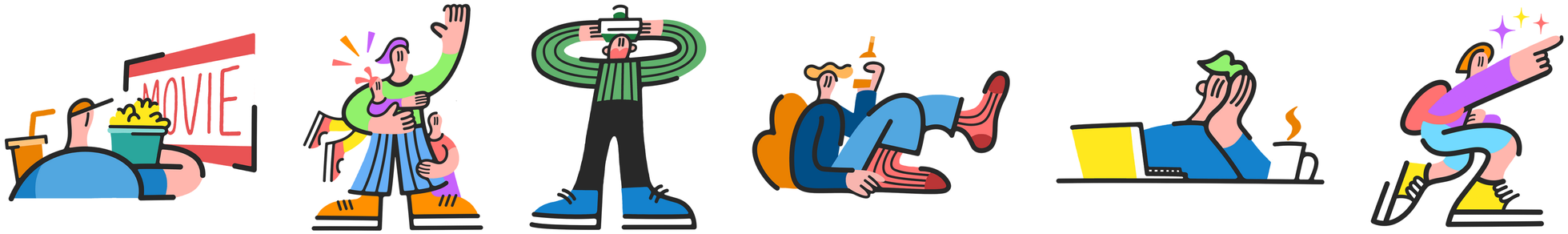
対象者3

・38歳　男性
・父　母と実家暮らし
・自営業8年トレーダー
・スポーツ観戦、自然の映像とって
　You Tubeにアップ

対象者6

・47歳　女性
・夫と2人暮らし
・パート：塾で講師アシスタント
・旅行、資格勉強

受け入れたい層6名には、共通点があった！



気質

穏やか。
人の言葉に耳を傾けるタイプ。

人の意見を否定せず、自分の意見を強く主張せず（押し付けず）、全体のことを一歩引いて見てるような印象。

- 目立たなくていいので縁の下の力持ちでいたい。こうあるべきだというようなことは言わない。
- 私はサポートしたい方。生まれ持った気質なのか、私はサポートする方にやりがいを感じている。

過去の体験

やさしさの裏側には
多様な人生経験

思い通りにならないことや、挫折を経験しながらも頑張ってきた。

- 過労で精神的に辛くなり仕事を辞めた。
- 介護と仕事の両立を何年も苦労した。
- 音大に入る夢を、怪我で諦めた。
- 親の転勤で海外を転々としてきた。

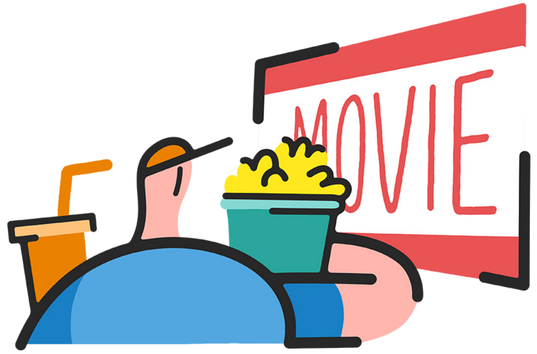
今の生き方

社会規範との葛藤の末
自分のペースを見つけている

社会の「こうしなさい」「これが正しい」様々な社会的な固定観念に圧力を感じた先に、自分らしく生きる道を模索している。

- 雇われて働くことが向いていないと思い自営業に切り替えた。
- 過度な労働環境から脱し、ワーキングホリデーで海外に行った。
- 仕事をやめて、アルバイトをしたり、気ままに生きている。
- 年を重ねても自分がやりたい仕事を見つけて、資格勉強をしている。

多様な人生経験から、自分のペースを大切に生きる。
だから、他人の生き方に口を出さない。
そんな穏やかで優しい人達。



このような人達が増えていくと、
マイノリティの立場に陥ったとしても、
自分らしく生きやすい世の中になるのでは?

一方で、受け入れたい人の中でも、向き合い方には違いがあった。

実際にインタビューをしてみると、

いずれも肯定的ではあるが遠い存在として捉えている層と、

身近で向き合いたいと考えている層の2つに分かれた。

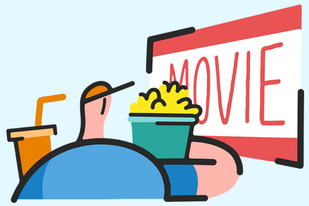
我々は、これを

ジェンダーニュートラル と **ジェンダーポジティブ**

に分類した。

ジェンダーニュートラル

多様なジェンダーの自分らしさの追求に共感し、応援するマインドは持つが、
関わってきた経験も少なく、どう向き合っていい分からず傍観している状態。



受動的に情報に接触して意識変化

- ニュースや海外ドラマで(多様なジェンダーの)描写が増えて、社会が変わってきたと感じる。
- (多様なジェンダーの)テレビタレントを見ている中で、大丈夫な人だと印象が変わっていった。
- 新聞やニュースなどで性同一性障害とか、どこかの役所で男子だけど女子になりたいが女子トイレに入れないという人が結構いるんだというのが取り上げられて目にする機会が増えた。

どこか他人事。何をしたらいいか分からない。

- (情報に接して)生きづらい人がいたんだなと思った。
- 差別するのは良くないが、何かをしてあげようという気持ちはあまり…。
- どこか他人事になるが、そういう人たちは大変だろうなという感じ。
- 許容できるし、男でも女でもいいじゃないという社会になればいいと思うが、どうしたらいいかわからない。そういう人がいっぱいいるなら、許容できる社会はどういうことから始めたらいいのかと、漠然と思う。

ジェンダーニュートラル

生きづらいよね。
わかるよ。

ニュートラル層

自分らしさ尊重

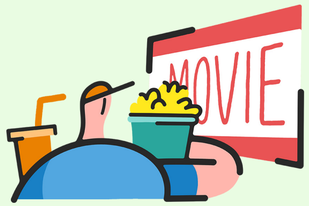
自分らしく
生きよっと。

多様なジェンダー

自分らしさをもって一人ひとりが生きやすい世の中に！

ジェンダーポジティブ

多様な「らしさ」に実際に触れ、楽しむ経験から、人と違うことをポジティブに捉えている。
他者を尊重し、自分らしさも肯定的に捉えることができている状態。



多様な人に直接的に接触して意識変化

- 実際に挨拶したゲイの方が、好青年だった。
- 一緒に過ごすと、フレンドリーで愛情深いと思った。異性愛よりも愛情深いと思ったくらい。
- 実際に接して性別の枠を超越していると感じた。枠がない考え方が尊敬できた。

ひとり一人の「好き」が選択できる世の中がいいし、できることはしたい

- 誰もが自立した意見を言えた方がいい。
- 本人を見て、個人で判断される世の中になれば、より日本もこれから伸びていくと思う。
- 私はこれが好き、こうありたいと一人ひとりが自由に言える。そして周りが受け入れてくれる環境が一番いい。

ジェンダーポジティブ

その個性素敵！
その考え方おもしろい！

私も自分らしく
生きよう！

ポジティブ層

あなたらしさ
相互尊重

嬉しい！

あなたも素敵！！

多様なジェンダー

あなたらしさを認め合う一人ひとりが輝く世の中に！

「男らしさ・女らしさ」から「自分らしさ」へ

多様なジェンダーや人との違いを、ニュートラルに捉え、受け入れると自分らしさを大事にできる。

「自分らしさ」から「あなたらしさ」へ

さらに違いを楽しみ、ポジティブに捉えると、自分らしさも、あなたらしさも大事にできる。

一人ひとりが「らしさ」を認め合い、楽しむ世の中にれば、
個人・企業・日本全体にポジティブなサイクルが拡がり成長していくことに繋がるのではないでしょうか。
これはジェンダーのみならず、あらゆるその人「らしさ」をたたえ合う世の中に通じることかもしれません。

Special Interview

Ryo

1985年11月5日生まれ。
京都府京都市出身。
ラグジュアリーを中心としたデジタルマーケットプレイスにて、顧客専属のスタイリストとして勤務。
大手アパレルメーカーやラグジュアリーブランドの経験を活かし現職に至る。顧客の潜在ニーズを引き出すことや、多様な提案力に強みを持つ。

男か女かじゃなく、わたしはわたし。男だから、女だからって、自分でブレーキかけているのはもったいない。

そもそも男らしくとか女らしくなんて考えたことがあまりない。

ーご自身の性のあり方は?どんな学生時代?

性別としては男性だし、女性になりたいわけでもないから、自分の性のあり方を何と呼ぶかなんて考えたこともないんですよね。相手が思う性別で、扱って貰えればそれでいいと思っています。男か女かじゃなく、わたしはわたし。

小さい時から、男の子なの?女の子なの?と疑問を持たれることはありました。そういう意味で、他の人とは違うんだろうな、とは認識しているけれど、周囲から「男らしくしなさい」とかは、あんまり言われなかったかな。母親には「また、そんな髪長くして」とか「爪長いわね」とか言われてましたけれど（笑）。

学生時代、容姿が人と違うことを何か言われてすごく辛かったとか…そういうのは全くなかったです。男らしくないって言われても、そうなんだろうな、って思うくらい。自分がしたいファッションやふるまいをしているだけだし。みんなも同級生たちも認めてくれているし楽しかった。大学時代、アメリカに留学したけれど、みんな自由な振る舞いで生きていて、日本との違いを感じました。ゲイの人は、すごくゲイっぽかったし、日本みたいに「男らしくしなきゃ」とか我慢している人もいないし、そういう人たちを嘲笑する人たちもいなかったし、すごくポジティブに見ている社会に驚いたけれど、すごく楽しく過ごせました。

自分らしく生きていて、それに対して受け入れてくれる人と仲良くなっていった感じで。
受け入れてくれる人と仲良くしていたら、更にその先に、同じように受け入れてくれる人たちが沢山いるから、男・女関係なく受け入れてくれる人たちと仲良く生きている感じかな。

色んな人たちがいて、色んな人と話すことで、自分は自分の好きなものを選んでいいんだって感じた。

ー社会人になってからの経験は?

社会人になって、働き始めたアパレルブランドでは、色んな人たちがいたから、特に自分が異質なものとして捉えられることはなかったかな。外資の社風だったのか、すごくポジティブに評価してくれた職場で、いい所を見つけようとしている文化だったから働きやすかったです。
その後、ラグジュアリーブランドに転職したけれど、制服は男性用のだったけれど、嫌とかはなかったかな。サイズが大きかったから、小さいサイズにしてもらったくらい(笑)。
トランスジェンダーの人もいたし、その人も制服は希望する性のものを着て働いていたり、自由だな、って思ったりしました。

男だから、女だからって自分でブレーキかけないで。

男性だから、女性だからって、自分でブレーキかけている人っていっぱいいるんだな、って。
でも、着てしまえば普通やん、ってなるから、色々試してみたらいいのに、って思ったりする。
男性のお客様でも、ジェンダー問わずライフスタイルに合うようなファッションがあれば提案しています。女性のお客様でも、サイズが無いからメンズ服を見るお客様もいっぱいいるし。
私自身、「自分らしさ」っていちいち意識しているわけでなく、今の自分に似合うものを選んだり、周りのいいな、と思うものを取り入れて楽しんでます。そこに性別の制限とかで選択肢を減らしてしまうのはもったいないと思います。

私みたいな人がいても「普通」って言ってくれる若い人が増えている。

ー多様なジェンダーをどうしたら楽しめる?

私みたいな人がいても「普通」って言ってくれる若い世代が増えていると最近すごく感じます。自分みたいな人、学生時代に身近にいたよ、って言われたり。多くの人が認識して、時代は進んでいるんだな、って。

自分らしく生きるには、選択肢が多いことが大事。

自分らしく生きているから、あまり自分で意識していないから、どうしたらいいかなんてアドバイスは難しいけれど(笑)。
「違い」が当たり前の環境に踏み出してみるとか、冒険してみることが大事なのかなぁ?
色んな人がいるし、色んな好みがある。色んな選択肢があればもっと色んな動きが出てくると思う。選択肢が多いと「あ、ここから始めてみようかな」と思えるだろうし。
それで自分らしく生きる人も増えるだろうなって思います。
自分らしく生きるために一歩が踏み出せない人にとって、選択肢の幅広さは大きな救いになると思います。社会を変えようと、色んなアクションはあるけれど、「受け入れなきゃ」とかじゃなく、色んな価値観に触れて欲しいなって思います。

CHAPTER 3

アクション提案

受け入れたい人たちが増えると
もっと世の中がポジティブになるのかな?

ジェンダーポジティブを
増やしていくにはどうしたらいいのか?

今回の調査の発見から、ジェンダーポジティブになるまでの道のりと、その方法を検討してみた。

GENDER POSITIVE Journey

多様なジェンダーを受け入れ度合いについて、
「受け入れられない層」「ジェンダーニュートラル」「ジェンダーポジティブ」のグラデーションで考え、
この右に進んでいく道のりを、私たちは「Gender Positive Journey」と名付けました。

右に進んでいくためのアクションを検討してみた

受け入れられない層

「男らしさ」「女らしさ」

多様なジェンダーに対する知識が少なく
どんな人たちなのかリアリティがない

ジェンダーニュートラル

「自分らしさ」

多様なジェンダーに対する知識はあるが
どんな人たちなのかリアリティがない

ジェンダーポジティブ

「自分らしさ」「あなたらしさ」

多様なジェンダーに対する知識はあり、
どんな人たちなのかリアリティもある

PHASE 1　ジェンダーニュートラル層を増やす

多様なジェンダーを受け入れられない層が、ジェンダーニュートラルに移行するには
まず、多様なジェンダーに対する知識や
自分と他者との違いをニュートラルに捉えるためのトレーニングが必要となる。

受け入れられない層

「男らしさ」「女らしさ」

自分や身近な人が「普通」だから、自分たちと異なる人は
「普通ではない」という既成概念が寛容性を阻害

加えて、多様なジェンダーについて正しい知識がないことも課題

ジェンダーニュートラル

「自分らしさ」

自分たちと異なるものをニュートラルに
捉えるために正しい知識を身に付け
異なる価値観を知ることが重要

To GENDER Neutral Action

楽しくGENDERの知識を身につける企業研修

正しい知識を伝えるための、座学的な研修は世の中にたくさんある。しかし、知識を詰め込むだけの研修は、
聞かなければいけないから聞くという形式的になりがち。もっと楽しくて、やりたくなるような、研修をつくれないか。

学校のように、
講師が知識を話し、
椅子に座って聞く
座学的な研修

多様な性の当事者と一緒にアウトドア体験
アウト・ドア・ミーティング

多様な性の当事者たちをホスト役に迎えた
オフィスビアガーデン懇親会
ジャンプアップ・ビアガーデン

多様な性の当事者と向き合って
お互いの似顔絵を描くワークショップ
トゥルー・カラー・キャンバス

楽しくGENDERの知識をみにつけるモノ・コト・サービス

ジェンダーの知識を楽しく身につける。という視点で
捉え直す事でさまざまな新しいアイデアが生まれる。

多様なテーマを楽しむ ミュージアム	ジェンダーニュートラルな展覧会 **NEUジアム**
勝手に刷り込まれる色のイメージ 女の子=ピンク　男の子=ブルー	子どもたちが好きな色で服を塗り、 自分の好きや個性を発見するワークショップ **マイカラー服育**
日常にニュートラルになる きっかけ・接点がない	楽しくジェンダーの知識を身につけられる 少年漫画・少女漫画の壁をこえた **週刊ジェンダー・コミック**
子どもが接する家族像は 異性カップルが大多数	ドール玩具の家族セットに多様な家族の形を **ダイバーシティファミリードール**

PHASE 2　ジェンダーポジティブを増やす

ジェンダーニュートラルから、ジェンダーポジティブに移行するには
多様なジェンダーや多彩な価値観に触れるポジティブな体験を増やすことが重要。
「自分らしさ」と「あなたらしさ」の相互尊重を楽しむ機会を増やしていく。

ジェンダーニュートラル

「自分らしさ」

多様なジェンダーの知識はあるけれど身近に異なる
価値観の人が少なくリアリティがなく、
どこか他人事になってしまっていることや、
多様な価値観と触れ合うポジティブな
体験をしたことがないことが課題

ジェンダーポジティブ

「あなたらしさ」

知識を得ることではなく、
実際に多様な価値観に触れながら
ジェンダーポジティブな体験機会が重要

To GENDER POSITIVE Action

多様なジェンダーや多彩な価値観に触れるポジティブな体験

知識を身につけた後、実際に違いを楽しむ体感をすることで、より「自分らしさ」「あなたらしさ」を大切にできるようになる。

価値観の違いにぶつかる 恋愛の悩み	多様な性をもつマスターが恋愛の相談にのってくれるカフェ **虹恋喫茶**
ホスト役の性別が固定化されている 夜間の飲食店業態	多様な性の人が日替わりでママを務める **ジェンダーガチャスナック**
パウダールームは 女性トイレにしかない	美容商材のサンプル使用もできる男性トイレ用のパウダールーム **コンディショニングルーム**
デパートや商業施設では 性別によって商品棚の中身が違う	性別ではなく個性に寄り添ったアドバイザーが フロア横断でアイテムをおすすめしてくれる **個性発掘コンシェルジュ**

多様なジェンダーや多彩な価値観に触れるポジティブな習慣

習慣的に、ジェンダーが生まれてしまっている物事を
ジェンダーポジティブで捉え直すことで、新たな習慣が生まれる。

男性・女性ごとに細かいルールが決まった
冠婚葬祭の服装

結婚式会場がアパレルウェアと提携し、性別やルールに
囚われない自由なデザインや色の服を推奨
ドレス・コードレス

男性・女性ごとの学校の制服

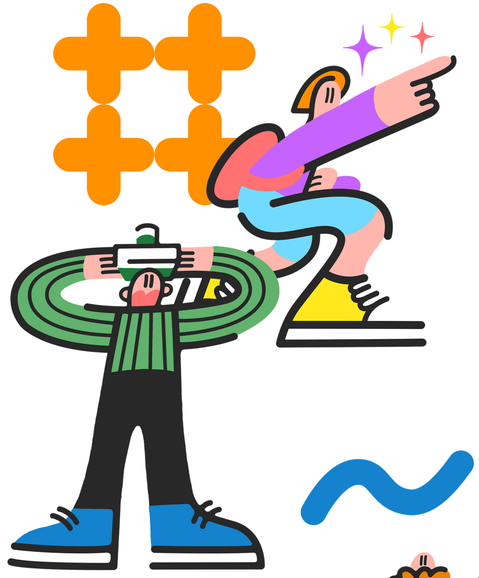
ポップなデザイン、
形を自由に選べて個性を引き出す制服
ジェンダーポジティブユニフォーム

デパートや商業施設は
性別によってフロアが分かれる

性別関係なく、テイストでフロアを分ける
スタイルキュレーションフロア

中学・高校では
性別によって入れる部活が違う

性別関係なく楽しめる部活づくりを応援・支援！
ジェンダーポジティ部



GENDER POSITIVE

ジェンダーポジティブ

「自分らしさ」と「あなたらしさ」
それぞれの「らしさ」を楽しむことが出来ると、
それぞれの「好き」を選べるようになっていき、
幸せ溢れるカラフルな世界になっていきます。

ジェンダーに限らず、自分と異なる価値観に対して、
ニュートラルに向き合うには、知識が必要です。
ポジティブに向き合うには、体験が必要です。
互いの価値観を拡げ、楽しむ人たちが増える
ポジティブな社会に向けて、
このレポートが一つの兆しになれば、幸いです。

GENDER POSITIVE Solution

私たちは、DEI推進から、多様性社会での価値開発や新規事業創出など、
戦略プランニングからアウトプット作成まで、一貫してサポートが可能です。

DEI推進サポート

**オリジナル
研修プログラム**

多様なジェンダーに対して
ニュートラル&ポジティブな
チームビルディングを行います。

マーケティングサポート

**マーケティング&
クリエイティブ**

多様な価値観を活かした戦略立案や
「らしさ」を楽しむクリエイティブで
新たな価値開発を行います。

イノベーションサポート

**商品開発や
事業開発**

ジェンダーレスではなく、
ジェンダーポジティブな視点で
商品開発や事業開発を行います。

その他、リサーチや表現監修などの実績も豊富ですので、お気軽にお申し付けください。

SIGNING Social Business Studio

LGBT総合研究所 Japan LGBT Research Institute.inc.

DAIKO

調査概要

○ 定量調査

調 査 対 象 ： 15～79歳の男女
調 査 地 域 ： 全国
調 査 方 法 ： インターネットリサーチ
調 査 時 期 ： 【事前調査】2023年8月17日～8月22日
【本調査】2023年8月18日～8月22日
有 効 回 答 数 ： 【事前調査】10,000サンプル
【本調査】1,458サンプル
調査実施機関： 株式会社マクロミル

○ 定性調査

調 査 対 象 ： 定量調査より抽出
調 査 方 法 ： デプスインタビュー
調 査 時 期 ： 2023年9月15,18日、10月1日
調査実施機関： 株式会社マクロミル

リサーチメンバー

編集長　森永貴彦	LGBT総研/SIGNING/DAIKO
リサーチディレクター 清家嵩人	SIGNING/DAIKO
アートディレクター 齊藤あかり	SIGNING/DAIKO
プランニングディレクター 久松みずほ	SIGNING/YOMIKO
西岡岳	SIGNING/DAIKO
鷲尾和彦	SIGNING
亀山淳史郎	SIGNING

デザイン

小林喜佐斗　MATO
ABEBE　イラストレーター

広報

塚越奈央　青島 あや
三浦枝奈　千田 恵梨
齋藤由希子　田中 有沙
中野 宏昭

発行元：SIGNING Ltd. / DAIKO ADVERTISING INC.

SIGNING Social Business Studio　LGBT総合研究所 Japan LGBT Research Institute, inc.　DAIKO

Special Interview

ryuchell

2022年11月、　SIGNINGとCINRAが共同で、「多様性」についてもっと楽しくポップに考えられないかという思いで「渋谷飴」プロジェクトを実施した際、ryuchellさんと対談記事を出した。
今回のテーマにも合う素敵な言葉を沢山頂いたので、最後に紹介したい。

参照元：
（渋谷飴PJ）
https://shibuya-culture-scramble.com/article/19534/
（対談記事）
https://www.cinra.net/article/202211-ryuchell_mrymh

本レポートの趣旨に賛同頂き、マネジメントからの使用許可を得て掲載しています。

これでOK！ と思えたら、それが自分らしさになる。

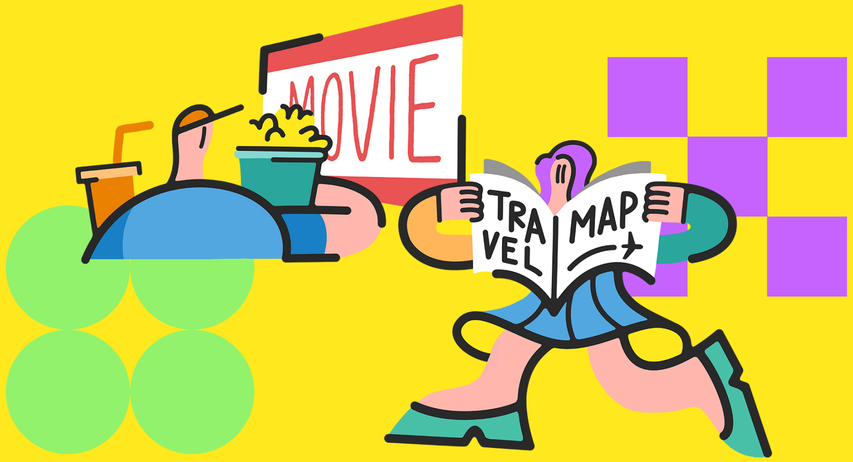
ぼくも自分らしさなんてわからないです。SNSで見せている自分が本当の自分ではないですし、家にいるぼくはまったく別人ですし（笑）。
SNSでカッコつけてしまうことに悩む人もいるけれど、人前でどう見られたいかわかっているのも自分らしさですよね。
素の自分と、人に見せたい自分との違いを「これでOK！」って許せるようになったら、それは全部自分らしさ認定していいって思います。

人生をあきらめずにいたら、自分の個性を尊重してくれる友達に出会えた。

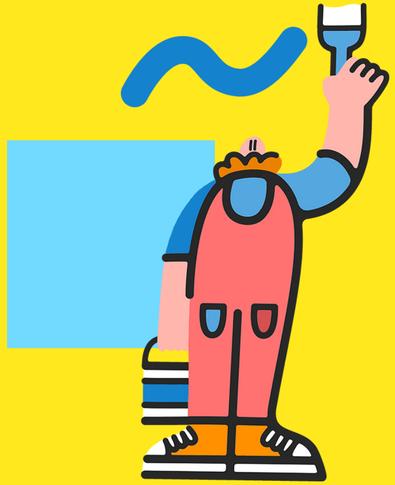
（高校で自分を全開にした時の反応について）自分のなかでは割り切ってたんです。怪訝な反応をされたとしても、気にしない。新しい自分になるって決めたから。「自分の人生はこんなもんなんだ」って範囲を決めつけないことで、世界が広がっていきました。
ぼくの個性を尊重して、多様で素敵な考えを持っている友だちに出会えたんです。嬉しかったですね。
相手の性別、年齢、肩書きとか一切関係なく、ぼくの魂を見てくださっている人たちがいることを知りました。

理解はできなくても、認めることはできる。

多様性を呼びかけているつもりでも、逆に「多様性を強要してない？」みたいなことって多いんです。共有ならいいけど強要だなって。とある俳優さんとお仕事させてもらったときに「自分の個性は個性がないことだと思います」って仰ってたんです。だからこそ仕事につながる、とも話していて。ぼくは派手な色が好きで、それしか着れなくて、どんなにもがいても努力をしても、その方の個性には絶対になれないんです。
いろんな生き方があっていろんな個性がある。正直ほかの生き方を完全に理解はできないけれど認めることはできるなって、そこで初めて気づきました。理解する必要はないんですよね、愛を持ちながらいい意味で距離感を持つ。それが多様性を実現するために、大事な考え方なんじゃないのかなって最近思うようになりました。



SIGN ING
Social Business Studio

LGBT総合研究所
Japan LGBT Research Institute, inc.

DAIKO